



WE, JOKERS

英語のジョークを楽しむ会会報

No.52 December 10, 2015

- ジョークの心得三か条:
1. ジョークは心のゆとりであり、人生の潤滑油です。
 2. ジョークで言語の壁に挑むのは知的快感です。
 3. ジョークは簡潔が至上です。



[第 52 回研究発表会]

GRAVE METTERS

土屋 政雄

教会墓地管理者ハンドブックによると、墓碑銘の目的は、そこに誰がいつ埋葬されたのかを明らかにすることであり、そのために必要な情報だけを刻むのが望ましいとされる。何か付け加えるとしても、読む人の心に多少の慰めを与える言葉に限るべきだとも言う。

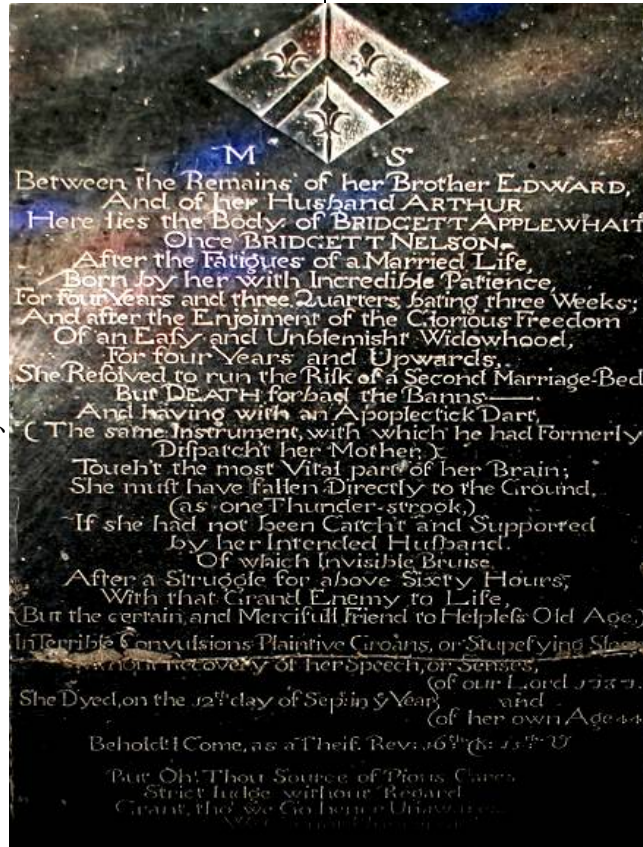
ご説ごもつとも。だが、現実の墓碑銘は、そんな常識におとなしく縛られたりしない。碑文収集なるホビーが存在し、発行される碑文集の多くのタイトルに“Curious Epitaphs”とか“Interesting Inscriptions”などの言葉が含まれていることから、それがわかる。

つい笑ってしまうような不謹慎な墓碑銘も実際にある。JLCとしては絶対に見逃すことのできないジャンルだが、これについてはすでに会報第

10号に「人生いろいろ墓碑銘いろいろ」と題して書いた文章があるので、それを読んでいただきたい。筆者の目下の関心は、単純にアハハと笑えるような碑文から少し離れ、夫婦関係の機微とか家庭の状況、社会の雰囲気などをうかがわせるものになりつつある。

11月の例会では、アップルウェイト夫妻

の碑文を取り上げた。妻ブリジットの長文の碑文(左図)には、夫との生活に疲労困憊しながらも、「信じられないほどの忍耐力で」それに堪えぬいたこと、だがそれは4年9ヵ月ほどで終わり、「思いがけなく早く、言うことのないすばらしい後家生活」が訪れたこと、それを4年余りつづけるうちに再婚を考えるまでになったこと、未来の夫とと



もにそのための結婚予告を行っていたところ、突然、脳卒中に倒れ、60時間ほど苦しんだあげく亡くなったことがつづられている。夫アーサーの----おそらくは妻ブリジットが書いた----碑文と読み合わせてみると、夫とは単に仲が悪かったというだけではなかったようだ。アーサーは、妻ブリジットがその父親から自分だけの財産を相続したのがおもしろくなく、意地悪のため故意に遺言書を残さなかった（とブリジットは考えている）。おかげでブリジットは自分の財産をめぐって義兄（アーサーの兄）と裁判で争うはめになったことが読み取れる。実に興味深い。

夫婦関係ということではジョージ・クルックシャンクのケースもおもしろい。クルックシャンクは風刺画家で、ディケンズの小説の挿絵などを手掛けて人気があった。死後、最初はロンドンのケンサルグリーン墓地に埋葬され、妻の手による碑文はこうなっていた：

... FOR 30 YEARS A TOTAL ABSTAINER AND ARDENT PIONEER ... OF UNIVERSAL ABSTINENCE FROM INTOXICATING DRINKS ... THIS MONUMENT IS ERECTED BY HIS AFFECTIONATE WIDOW ELIZA CRUICKSHANK

もともとジンが好きな大酒飲みだったらしいが、最後30年間は禁酒運動に熱心だったことが強調されている。ところが埋葬後ほんの数ヵ月で遺体はケンサルグリーンからセントポール大聖堂に移され、碑文も新しくなった：

In Memory of his Genius and his Art, his matchless Industry and worthy work for all his fellow-men, This Monument Is humbly

placed within this sacred Fane by her who loved him best, his widowed wife.

ここでは芸術上の貢献にしか触れられておらず、碑を建てた妻のことも以前の「彼の愛情あふれる妻」から「彼を一番愛していた妻」に変わっている。この数ヵ月間に何があったのだろう。調べてみると、夫妻には子供がなかったが、実はクルックシャンクは近くの通りに元家政婦を住ませ、そちらに何人もの子供をつくっていたことが、死後すぐに判明したようだ。碑文の変更にはこのことが影響したに違いない。「彼を一番愛していた妻」には、元家政婦などに負けるものかという妻の意地が見てとれる。

エセックス州のバードブルック教会の2つの碑文にも興味を引かれる。1つは：

MARTHA BLEWIT, of the Swan Inn at Bathorn-End in this Parish, buried May 7th, 1681: was the Wife of nine Husbands successively, but the ninth outlived her ...

もう1つは：

ROBERT HOGAN of this Parish was the Husband of Seven Wives successively, he married Ann Livermore his seventh Wife January 1st 1739 ...

2人の生きた時代は5,60年ほども違うようだが、これほど女運・男運の悪い（良い？）男女が同じ教区に現れたというのはどんな偶然だろう。もし同時代に生きて、2人が互いに結婚したらどちらの運が強かったらろうか、などと愚にもつかないことを考えたりする。

✠ ✠ ✠ ✠ ✠ ✠ ✠



第 29 回
ジョーク・コンテスト
MC の記
岡田 茂富

「一難去ってまた一難ですが」ですって、これ編集長佐川さんの執筆依頼の中にあることばですが、そうなのです、人間嫌いを自称する偏屈者がやっと重い腰をあげ、ジョーク・コンテストの MC を何とか務めましたら、今度は MC として感想や意見を書けとのおおせ付けなのです。でも、なんとかして難なくまとめあげたいものだ、と強く願っています。

今回のジョーク・コンテストの出品作は全部で 17 題。一位に選ばれたのは、Every wife is a “Mistress for her husband.” の小池さんの出品作です。“Stress” for the rest 23 hours! で、ほとんどすべての結婚している男性の共感を得たのではないのでしょうか。私も同感の一票を投じました。それにしても小池さんは、今年になって 3 度もジョーク・コンテストに一位入選を果たしているとのこと、きっと特別の才能の持ち主なのでしょうね。

二位を勝ち取ったのは、舟崎さん出品の Daughter: What’s your birthstone? Father: The grindstone. です。読む人は、He keeps his nose to the grindstone. (絶え間なく働いている) というイディオムを思い起こし、思わず笑ってしまいます。

三位は同票で二人います。深澤さんのジョーク Three seasons in Singapore : hot, hotter, hottest. これは自作でしょうか。格

好よく Singaporean なんて言われると、シンガポールにはほんとうに三季あると信じてしまいそうです。

もう一人は、草野さんの FIFA’s soccer rule, your hands can touch “kickbacks.” そういえば、FIFA の役員が kickbacks を受け取っていたことが発覚したニュースは、まだ記憶にあたらしいところです。

その次に票を多く集めたのは、妻とガールフレンドの違い：45 ポンド。夫とボーイフレンドの違い：45 分でした。前者の違いはよくわかるのですが、後者の違いは今もってなぜだか、よくわかりません。いつも同じだと、手をぬくということでしょうか？ それなら、まことに無理もないこと、ごく自然な話です。

続いては、Fairy tale: “Sorry I’m so late, dear. I was detained at the office.” ご主人がオフィスにいなかったのはもうばれている、それでは、ご主人はどこにいて遅れて帰ってきたのでしょうか？ そんなことを考えはじめると、もう一つミステリーができます。

そのあとに控えているのは、“If you don’t marry me quickly, someone is saying he will kick me.” “It’s our baby in my stomach!” です。このジョークにボッティチェリの春（プリマベーラ）のイラストをつけた佐川さんによれば、春の女神は妊娠しているに違いないとのことですが、さてこの貞淑そうに見える女神はいったいだれの子どもを宿しているのか？ これもミステリーですね。

その次が、「光陰矢の如し」。みんないかに時間をつぶそうか（殺そうか）と思っている

ので、時間は矢のように逃げだすのだ、というわけ。続いて、Two Irishmen were talking, watching Tour de France on TV. “Why would they torture themselves like that?” “The winner gets a million Euro.” “Why do all the others do it?” この質問に馬鹿正直に答えれば、Because they want to become the winner ということでしょうけど、これって competition の本質をついているかもしれませんね。

そうそう、Irishmen は酒が大好き。こんなジョークもあります。Q: What's the difference between an Irish wedding, and an Irish funeral? A: There's one less drunk.

次は、the thickest book: “L'Amour en Français”, the thinnest book: “the good cuisine in England” です。

その昔、私は若いときに夢中になって読みました。日本語でしたけど、スタンダールの「赤と黒」、パルムの僧院、ラクロの「危険な関係」、等々。筆者がイギリスに行ったときは、特に食事がまずいとは思いませんでしたが、イギリスを代表する食べ物、フィッシュ&チップス、マーマイト、ヨークシャープディング、ハギス等、これらは美味しいからどうぞ、とどうも推薦できません。しかしなぜ、英国人は食べることにそんなにうるさくないのでしょうか？ 食べることにあまりこだわらないほうが、私にはなんとなく大人然として高級に感じられます。食にうるさいのは、肉感的で低級ではないのでしょうか（私はうるさいほうです）。

続いて、The wise is the husband who does not want to surpass his wife. ごもつとも、ごもつとも。

The Christmas alphabet has Noel. や The new restaurant on the moon has great food but no atmosphere. たしかに No mood in the moon restaurant. でしょうね。

明らかに損をしているのは、Do NOT Drink and Fly. です。これ、字数制限以内におさまるので、表題 Halloween warning を付けるべきでしたね。そうすれば票を得たかもしれません。でも、出題したご本人は得点なんてまったく気にしていない様子でした。

People ask me how many children I have and I say no strike and three balls. Oh, boy, one strike is one boy. Three strikes, out! だそうです。

Donald won't duck her. He'll trump her. (辞書をみると、duck は避ける、trump は奥の手を出して勝つこととでています) あゝそうだ、Donald Duck が隠れていますね。

さて最後に、A horse walks in a bar ジョークですが、No money. Sue money. 馬が急に日本語を話したりして、ウマくなかったようです。DOUGH MOW SUE MONEY.

JOKES PICTURESQUE 1



A YOUNG-OLD WOMAN



英語のジョーク超入門講座
第4回 IRISH BULL
豊田 一男

Irish bull は「アイルランドの雄牛」ではなくジョークの世界では「言った本人が気づいていない一見もっともらしいが滑稽な矛盾のある話」のことです。なぜ Irish bull というのかについては諸説あるようですが、ここでは実例を楽しんでください。

・ A lonely child, wanting companions, once said to his mother, “I wish I were two little puppies so that I could play together.”

(友達ほしい独りぼっちの子がかつて母親にこう言った「ぼくと一緒に遊べる2匹の子犬ならならいいのになあ」)

一人で2匹になりたがっています。

・ A restaurant advertised: “Buy one hot dog for the price of two and receive a second hot dog absolutely free.”

(あるレストランの広告「ホットドック1個を2個分の値段で買って2つ目は全く無料で受け取ってください」)

これでは無料になりません。

・ We saw this poster in a public building: “If you must smoke, DO NOT EXHALE.”

(ある公共の建物のポスターに「タバコを吸うなら、吐き出すな」)

“NO SMOKING”より効果的なポスターかもしれません。

Irish bull では次の2人、映画プロデューサーだった Samuel Goldwyn (1879-1974)

とメジャーリーグ、ヤンキースのキャッチャーで後に監督になった Yogi Berra (1925-2015) が特に有名です。いくつか拾ってみましょう。まず、Samuel Goldwyn から:

・ I don't think anybody should write his autobiography until after he's dead.

(誰も死後までは自伝を書くべきではないと思う。)

死んでしまったら書けません。

・ Anybody who goes to a psychiatrist ought to have his head examined.

(精神科医のところへ行く人はだれでも頭を検査してもらった方がよい。)

他に何を検査してもらおうのでしょうか。

・ I may not always be right, but I am never wrong.

(私は常に正しくはないかもしれない、しかし決して間違えることはない。)

決して間違わないことを常に正しいというはずです。

・ If I could drop dead right now, I would be the happiest man alive.

(もし今すぐ急死できたら、生きている最も幸福な男だろうに。)

死んでも生きていられますか。

次は Yogi Berra から:

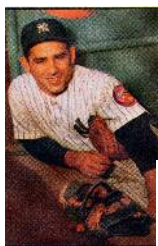
・ Little League baseball is a very good thing because it keeps parents off the streets.

(リトルリーグの野球は非常にいいものだ、両親を通りに近づけさせないから。)

親たちではなく、子供たちのはず。



・ Baseball is ninety percent mental. The other half is physical.



(野球は 90 パーセント精神的なもので、あと半分が肉体的なものだ。) 計算が合いません。

(1915年のベースボールカードから)

・ You should always go to other people's funerals, otherwise they won't come to yours.

(他人の葬式には必ず行った方が良く、さもないと君の葬式に来てくれないだろう。)

いかがでしたか。本人が全く気づかずにトンチンカンな発言をしているのが笑いを誘いますね。

JOKES PICTURESQUE 2



Rubin's vase



Pere Borrel del Caso (1874)

第 53 回研究発表会/2016 年新年会 ご案内

会員各位のご参加をお待ちします。まだ会員になっておられない方もどうぞ。

会場が変わっていますので、ご注意ください。

- 日時：2016年1月16日(土)
14:00~16:00
- 会場：銀座ライオン渋谷マークシティ店
(東京都渋谷区道玄坂 1-12-5 渋谷マークシティ 4 階)
電話：03-5428-3612
「渋谷マークシティ」は、京王井の頭線渋谷駅の上にあります。
- プログラム
総合司会 = 中嶋秀隆会員
① 新年のご挨拶と乾杯 = 宮本倫好代表
② 2015 年 MVP 表彰式
(受賞者には巨万の富が当たる可能性のある宝くじが贈られます。)
司会 = 安藤雅彦会員
③ 初笑いショート・スピーチ
司会 = 長谷川真弓会員
(必要に応じて、ハンドアウトをご準備ください。)
- 参加費：会員・非会員とも 3,000 円
(新年懇親会費 2,500 円 + 運営費 500 円)
- 問合せ先：renraku@eigojoker.com
- 緊急連絡先：
植田良明会員携帯 090-7717-5126

参加申し込み締め切り：2016年1月9日(土)

WE, JOKERS No.52

英語のジョークを楽しむ会 (Joke-Loving Club) 会報

発行日：2015年12月10日

発行人：世話人代表 宮本倫好

編集人：佐川光徳

連絡先：jlweb-renraku@eigojoker.com